

NPOへの「伴走支援」開始

ポストコロナの課題解決で市

市の市民活動推進センターは、新型コロナウイルスの影響で、活動停滞などの悩みを抱える市内のNPOへの「伴走支援」事業を始めた。IT活用や資金調達、広報戦略などの専門家を派遣し、ポストコロナの課題解決を助ける。(大森雅弥)

センターが二年前、市内のNPO法人を対象に実施したアンケートでは、イベント中止が66%、日常的な活動の停止が44%、収入減少が29%の団体に上った。感染拡大が一段落した後



オンラインで行われた「音楽サークル ドラムす」への支援＝ボランティアネイバース提供

IT活用、広報戦略などの専門家派遣

も活動が再開できなかったり、新たな課題を抱えたりする団体が少なくないという。伴走支援事業ではNPO法人ボランティアネイバースが事務局となつて、九月に支援対象の九団体を選定。各団体に専門家と調整役のコーディネーターを派遣し、実情を聞くヒアリングを経て、具体的なアドバイスが進んでいる。

障害者と健常者が一緒に演奏を楽しむ「音楽サークル ドラムす」(中川区)への支援は十一月下旬、オンラインで行われた。松田美和代表ら同団体の二人、専門家として川北輝・津市NPOサポートセンター理事長、コーディネーターの山崎恵美子・日本ファンドレイジング協会東海チャプター共同代表らが出席した。

ドラムすは二〇二〇年二月以降、活動が止まっていたが、十二月二十五日に二年ぶりの演奏会をオンラインで実施・配信することを計画している。十一月下旬の支援では、テスト配信で二つの会場を結んだが、うまくいかなかったことが報告され、川北さんが技術的な問題や会場の設営などについて説明し、広報の仕方なども提案した。アドバイスは来年二月まで数回実施される予定。

松田代表は「コロナで活動が転換期に入ったと感じている。新しく挑戦したいと考えている中、アドバイスもありがたいが、何より「一緒にやろう」という人がいて、自分たちの活動を整理して見られるようになるのがうれしい」と話していた。